

# あの頃の風景

山陽道編 第3回

## 時代のなかで 存在感を示してきたまち「明石」

株式会社日本構造橋梁研究所/設計部  
岩田剛彦 IWATA Takehiko (会誌編集専門委員)



① 明治36年の明石港の風景。右に見える灯台は港の歴史的シンボルとして現存

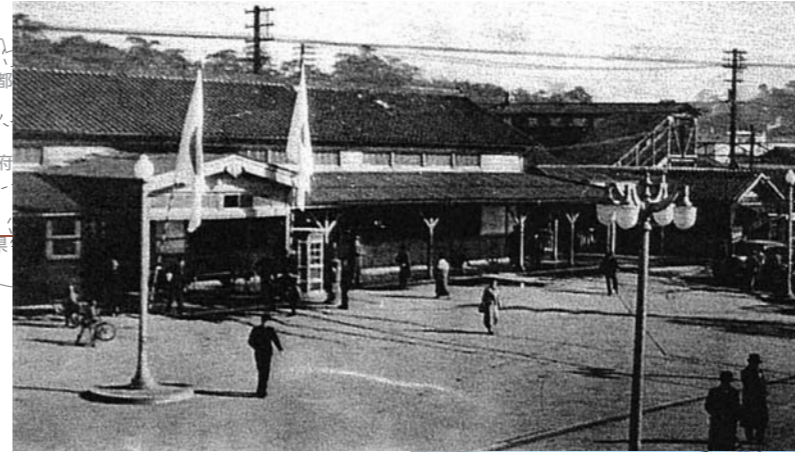
兵庫県の南に位置する明石市は、1918(大正8)年に全国81番目、兵庫県4番目の市として制定された。その後、1942(昭和17)年に林崎村と、1951(昭和26)年に大久保町、魚住村、二見町と合併し、現在に至っている。

明石市を表わす最も有名な名称として「時の町」がある。東経135度の日本標準時子午線上にあるからだ。トンポの子午線標識は、現在もなお建設当初のものが、明石市立天文科学館の裏にひっそりと立っている。

瀬戸内海に面する明石市は、御食国として、豊富な海産物を朝廷に献上していた歴史もつ。江戸時代には、小笠原家10万石の城下町として栄え、阪神と播磨との結節点という恵まれた地理的条件を活かし、交通の要としての役割も果たしてきた。

また、良質の粘土が採取されるため、古墳時代より土器作りが盛んであった。古代において西は九州、東は鎌倉まで運ばれていた。現在も古墳が多く存在する「焼き物の町」という顔も見える。

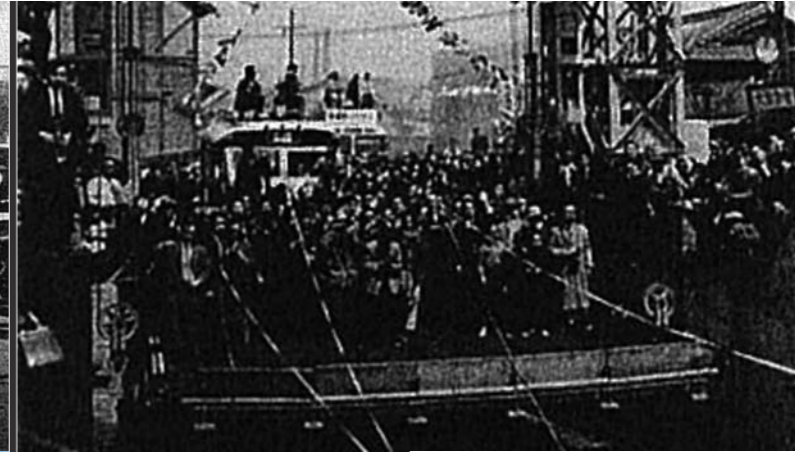
海の幸に恵まれた明石には「魚の棚」と呼ばれる商店街があり、その歴史は約400年前の明石城築城とともに誕生したと言われている。「魚の棚」の由来は、魚商人が大きな板を軒先にならべ、鮮度を保つために並べた魚に水を流していた様子からきている。この商店街には明石特産の海産物を取り扱う商店が並ぶ。2005年12月には商店街アーケードがリニューアルし、今なお、活気あふれる商店街である。近年では、明石の漁業は「とる漁業」から「育てる漁業」への転換をはかり、次世代に継承していくため、環境に配慮した漁場づくりに努めている。



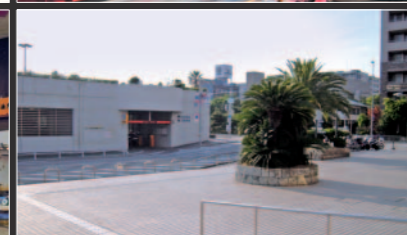
②(上) 昭和初頭の明石駅。当時から多くの人々が利用しており、自転車や自動車も見受けられる  
③(右) 明石駅北側。現在は山陽電車も乗り入れ人通りも多い



⑥(下) 昭和30年の魚の棚商店街。人や看板、かざりも多く、当時から活気あふれる  
⑦(右) 商店街のアーケードは2005年12月にリニューアル。明石駅、国道2号線、明石港に挟まれた商店街は朝から多くの人で賑わう



④(上) 昭和29年4月11日の多くの見物客で賑わうカーフェリー就航日  
⑤(左) 現在も同じ港の姿を見せる。明石と淡路島を約20分で結ぶカーフェリーは、明石海峡大橋を間近に望み、今なお多くの人々の大事な交通手段



⑧(下) 昭和41年の国道28号線の市役所前。写真中央の丸いモニュメントは下水管  
⑨(左) 市役所に2階建ての駐車場ができ、遠景では見えなくなった国道28号線は、明石港と国道2号線を結び、中崎ペランダ護岸と大浦海岸に平行に位置する



その漁場を挟み、明石の対岸に位置する淡路島は、淡路の国一宮の伊弉諾神宮があり、祭神は、伊弉諾尊と伊弉冉尊である。天照大神は、伊弉諾尊の左目から生まれたと言われている。この明石の漁場には、淡路島と神戸市垂水区を結ぶ世界最長の吊り橋である「明石海峡大橋」が架けられている。この架橋により、本州から淡路島への動線が大きく変貌を遂げたの言うまでもない。

明石港からは、淡路島への海運である明石淡路フェリーと淡路ジェノバラインがある。日本有数のタコの漁場を渡る明石淡路フェリーは、明石市と淡路島を結ぶ唯一のカーフェリーであり、「たこフェリー」と呼ばれ慕われている。この海路は、明石市中心部と淡路島を結ぶ最短ルートであり、明石海峡大橋が供用されている現在においても、トラックや法令により明石海峡大橋

を通行できない車両、通勤通学者を運び、また観光船という役割も担っている。

大都市の近くにながら存在感を示すまち、それが明石である。長い時の流れ、沢山の人の流れ、そして潮の流れが、明石というまちに色々な表情を見せてくれている。

- <参考資料>  
1) 「ふるさと明石」写真帳|播磨学研究所・明石文化財調査団 平成19年11月  
2) 「保存版 明石今昔写真帖」郷土出版社 平成20年4月  
3) 「明石市ホームページ」(<http://www.city.akashi.hyogo.jp/>)  
4) 「明石市観光協会ホームページ」(<http://www.yokoso-akashi.jp/akashi-history.htm>)

<取材協力・資料提供・撮影協力>  
明石市立文化博物館

<写真提供>  
写真①、⑧ 佐藤光俊(「ふるさと・明石写真帳」、「明石今昔写真帖」撮影者)  
写真②、④、⑥ 参考資料1  
写真③、⑤、⑦、⑨ 筆者